

令和3年度函館市西部地区再整備事業「町会活性化プロジェクト」
函館「荘」プロジェクト・弁天町会・函館市 活動報告会開催結果（要旨）

- 日 時 令和4年1月16日（日）14時～15時30分
- 場 所 弁天町会館（弁天町13-1）
- 出席者 函館「荘」プロジェクト（わらじ荘）：岸本純枝さん，三浦透眞さん
（関係者のみ記載） 弁天町会：宮越会長，川崎福祉部長
函館市：西部まちぐらしデザイン室・小柳室長，溝江次長，成田主査，
上野主事，市民部・奥ヶ谷主査，腰山主事
- 主 催 函館「荘」プロジェクト，弁天町会，函館市
- 開催結果 下記のとおり
- 挨拶 弁天町会 宮越会長
 - 報告会 函館「荘」プロジェクト 岸本純枝さん，三浦透眞さん
 - 意見交換 函館「荘」プロジェクトの岸本さんと三浦さんがそれぞれホスト役となり，
2班に分かれ参加者との意見交換を行った。

【開催目的】

令和4年1月16日，弁天町会館を拠点とした町会活性化プロジェクトの報告会を開催した。本プロジェクトは，西部地区の地域コミュニティを支える町会の活性化に向け，令和3年度は弁天町会をモデル町会として，新たな担い手である函館「荘」プロジェクトと弁天町会，および市職員が協働で，町会館を活動拠点とし，町会の活性化に必要な方策を検討し，毎月2回「しゅくだいクラブ」・「スマイルクラブ」と題し，子供向け行事の企画・開催を行ってきた。

今回の報告会については，新たな人材・担い手として，弁天町に拠点がある函館荘プロジェクト（わらじ荘等）が中心となって，弁天町と市の協力のもと，弁天町の町民向けに報告を行ったものである。

なお，年度内に活動の検証等を整理し，次年度以降の取り組みに反映する予定である。



（弁天町会・宮越会長挨拶）



（函館荘プロジェクトの報告会）

【報告「発表」内容】

函館市西部地区再整備事業の重点プロジェクトの1つである「町会活性化プロジェクト」の推進にあたり、再整備の基本方針の将来像の実現に向けた事業の検討・実施に、町会館を活用した様々な世代が集える場の提供が記載されていることから、函館「荘」プロジェクト・弁天町会・市の三者で、弁天町会館を拠点に何か活動できないか協議を重ねてきた。

このような中、「一過性のイベントではなく、日常的に地域に住んでいる方と関わること」をテーマに、まずは地域の子ども向けの勉強会や遊ぶ機会を設けることとした。そして、今年度の活動報告として、活動から見えてきた成果や課題、今後の展望について報告したものである。

※報告会資料は、「別添」のとおり

(活動内容)

- ・町会館を活用した子どもが集える場の提供。(スマイルクラブなど)

(成果)

- ・子どもたちとの交流の場を創ることができた。

(課題)

- ・もともとは幅広い年代の地域住民も交えた会を目指していたが、実現できなかった。
- ・学生だけでこれからも持続的に活動をしていけるか不安である。
- ・子どもとの交流＝地域活性化なのか。自分たち外の間人がやっているのは地域活性化と言えるのかわからない。

(今後の展開)

- ・幅広い年代の地域住民の人と一緒に活動できないか。
- ・もっといろんな学年の子どもが楽しめるような企画を考えたい。
- ・今後の持続可能な運営を目指した仕組みをつくりたい。

【意見交換】

報告会を終え、今年度の活動内容や成果および課題などについて参加者と意見交換をし、これらの意見を踏まえ、今後どのように取り組めばよいか、参加者で意見交換を行った。

※主な意見交換の内容は、以下のとおりである



(参加者が2班に分かれ、それぞれ意見交換)

(主な意見)

- 継続ある運営の仕組みが今後の課題かと考える。
- このような活動を通じて、地域の中から地域を盛り上げる学生の熱を感じ、町会館を拠点に、このような場・取り組みができたことは素晴らしいこと。
- 学生が地域に参画するということの意義、そもそも学生にとって、地域に関わることにどのような意味があるのか、地域の課題も複雑化し、まちづくり、町会活性のこれまでのやり方（課題解決）を学ぶ・実践するよりも、これまでなかったものをどうつくっていくのか（新たな魅力や価値の実現）ということの視点が大事になってきているように感じる。
- 多様な地域参加の方法を考えていくことが大切で、地域住民等への取り組みを今以上に発信し、より一層、地域住民に参加いただく仕組み・巻き込む方法等を検討するべき。
- 今回の取り組みを通じて、弁天町会館を拠点に、今後は弁天町近郊の町会（大町、船見、入舟など）とも連携するべき。

当日は、町会の方をはじめ、まちづくりや本プロジェクトに関心を持つ方、約15名の方にご参加いただいた。

函館「荘」プロジェクトからは、次年度は、北海道教育大学函館校の授業の取り組みの一環である地域プロジェクトとの連携も強化し、これまでの課題等を整理したうえ、まずは「顔の見えるつながりづくり」、「幅広い住民が関わるまちぐらし活動」を目指し、地域コミュニティの核である町会の活動に継続的に参画したいとの意見をいただいた。

【参考】

(町会活性化プロジェクトとは)

人口減少や少子高齢化、町会加入率の低下などにより、町会の資金力や活動量が減少し、町会の存続にも大きな影響を与えていることから、市職員や学生等の新たな人材が町会に深く関わり、状況分析と方策の検討を町会と協働で行いながら、町会の活性化につなげる取組を進めるプロジェクトである。

(新たな人材・担い手)

函館「荘」プロジェクト関係者（代表 下沢杏奈氏）

弁天町：旧野口梅吉商店「わらじ荘」、弁天町：旧西浜旅館「みなも荘」、谷地頭：旧中国茶屋「きらく荘」に居住し、「荘」を拠点に様々なまちづくり活動を展開。

(函館市西部地区再整備事業基本方針)

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2019052800023/files/kihonhoushin.pdf>

以上